

足るを知る

早いもので4月も終わり、5月に入りました。今は復活節のシーズン真っただ中です。このシーズンは十字架で死に、私たちの罪を贖ってくださったイエス様が蘇られた、そして私たちの死を滅ぼしてくださった、その恵みを覚えて過ごすシーズンに他なりません。イエス様復活の恵み、その愛にふさわしく歩いていくことがテーマとなります。イエス様の愛に応えて、私たちも人との愛の中を歩いていかなければならないわけですが、自分自身を振り返ってみてどうでしょうか？そうした歩みができているでしょうか？むしろ「ああしたい」、「こうしたい」と自分の欲求を満たすことばかり考えて、日々の生活の中で愛を忘れていないでしょうか。今日はそのことを反省するお話をしたいと思います。

先程お読みいただきました聖書箇所は、ルカによる福音書12:13～21です。イエス様が人々に話しておられた時、群衆の一人が言いました。「先生、わたしにも遺産を分けてくれるように兄弟に言ってください。」この人は遺産の相続を巡って、兄弟と争っていたんですね。これに対してイエス様は言われました。「わたしはあなたたちの裁判官や調停人ではありませんよ。」そして皆にこのように言われました。「どんな貪欲にも注意を払って用心しなさい。たとえ有り余るほど物を持っていても、人の命は財産によってどうすることもできないからです。」そして、有名な「愚かな金持ち」というたとえ話を話されました。それはこんなお話です。

ある金持ちの人がいました。すると、その人の畑が豊作になったのです。とても嬉しいことですね。でも、その畑でできたたくさんの実りを閉まっておくところがありません。皆だったら、こんな時、どうするかな？当時は食べ物がないで困っている人もたくさんいただろうから、皆で有り余る食べ物を分け合うこともできたはずなのです。でも、その人はこう言いました。「こうしよう。今の倉を壊してもっと大きなものを建てよう。そして、そこに穀物や財産を皆しまおう。この財産全部自分のものだ。この先何年も生きていくだけの蓄えができたぞ。働くのを止めて、食べたり飲んだり

して楽しもう。」でもそんな金持ちに神様が現れて、こう言いました。「愚かな者よ。今夜お前は死んでしまう。それはいったいだれのものになるというのか。」人々にこのお話をした後、イエス様は言われました。「自分のために一生懸命富を積んでも、神様の前に豊かにならなければこの通りだ」と。

皆はこのお話を聞いて、どう思うでしょうか？私は今回改めてこのお話を読んで、スヌーピーのあるお話を思い出したんです。ここで皆さんにお聞きしますが、皆さんはスヌーピーをご存じですよ。『ピーナッツ』という漫画に出てくる雄のビーグル犬です。

この『ピーナッツ』という漫画の登場人物を簡単にご紹介しましょう。まずはスヌーピー。先程も言いましたが、チャーリー・ブラウンという丸顔の男の子に飼われている雄のビーグル犬です。彼はいつも犬小屋の屋根の上において、そこで寝たり思索にふけったりしています。そしてスヌーピーの親友のウッドストック。これは黄色い小鳥です。またチャーリー・ブラウンにはサリーという名前の妹がいます。このサリーはわがままで、時にシニカルな視点を持っていてお兄ちゃんを困らせたりしています。口癖は「関係ないでしょ」という言葉。その他に、ルーシーとライナスという兄弟も出てきます。ルーシーはいつも大きな声でガミガミ言ってしまう女の子です。世話好きな一面もあって、皆の悩みも聞いたりしています。シュローダーというおもちゃのピアノをいつも弾いている、そしてそのピアノに寄りかかるのがお決まりになっています。そして、ルーシーの弟がライナスです。読書や哲学を愛する博識な男の子で、チャーリー・ブラウンの友達です。他にも、なぜかいつも埃まみれのピッグペンとか、メガネのマーシーとか、色々なキャラクターが出てきます。

この『ピーナッツ』という漫画、スヌーピーのお話の中で交わされる会話が、時にハッとさせられるんですね。そして今日の聖書箇所を読んで思い浮かんだのは、スヌーピーのこんなお話です。ある時チャーリー・ブラウンが、「もし一生懸命働いて、欲しかったものを全部手に入れたら満足かな」と問いかけます。するとスヌーピーは、

「飼っている犬に好かれなかったなら虚しいね」と返すのです。もちろん「飼っている犬」とはスヌーピーのことですけれども、人は何のために生きるのかということを考えさせられる言葉ではないでしょうか。

私たちはついつい自分の欲望を満たすことばかりを人生の究極の目標としてしまいがちです。でもそれで足るということを知らないなら、人生で肝心のことを見落としてしまって虚しくなってしまうことを避けられません。人間は一生懸命働いて欲しかったものをどんどんと手に入れても、その欲求を果たし続けるだけでは決して満足することはないのです。心理学で快樂順応という難しい言葉がありまして、これは、人は何かに満足してもその快樂にすぐに慣れてしまって次を求めたくなるという心理です。そのように満足しないところを、何かを得て、またさらに何かを得てと言って果てしなく快樂を求め続けても、どこかで満足する、足るということを知らなければいくら手に入れても心が豊かになることはありません。

イエス様のお話の中に出てくるお金持ちは自分の欲望を満たすことばかりで頭がいっぱいで、人と愛し合うということがありませんでした。この人の人生は豊かに思えて、実は貧しかったのです。私たちの人生を本当に豊かにしてくれるのは愛です。かつてパウロという人は「信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る」と語りましたが、愛は死を前にしても滅びることはありません。自分の欲望を満たすことについてはどこかで足るを知り、神様のもとで目一杯人と愛し合ひましょう。この教会を中心に、愛に溢れた豊かな人生を皆で一緒に過ごしていきたいと願います。

祈りましょう。 ——以下、祈祷——